

注 意 報

8 病 第 1 8 号
令和8年7月23日

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり、発表しましたので送付します。



病虫害発生予察注意報第3号

- 1 作物名 **ネギ等野菜類、豆類、花き類**
- 2 病虫害名 **シロイチモジヨトウ**
- 3 発生地域 **府内全域**
- 4 発生時期 **7月～**
- 5 発生量 **平年比多い**

6 注意報発令の根拠

- (1) 7月中旬に実施したネギの巡回調査におけるシロイチモジヨトウ（写真）の発生量は、平年比及び例年比多かった（+）（表）。
- (2) フェロモントラップへの誘殺虫数（6月第4半旬～7月第3半旬の合計値）は、京田辺市で例年比多く（+）、亀岡市で例年並、京丹後市で例年比やや少ない（-）（図）。
- (3) 大阪管区气象台7月16日発表の近畿地方1か月予報によると、気温は平年比高いと予想されており（+）、本種が増殖しやすい気象条件が続く見込みである。



写真 ネギでのシロイチモジヨトウの卵塊（左）、幼虫（中）、被害株（右）

表 巡回調査結果(7月中旬)

項目	小株		大株	
	本年	平年	本年	例年
寄生株率(%)	4.0	1.9	11.0	1.3
発生ほ場率(%)	60.0	24.9	80.0	26.7
被害株率(%)	—	—	17.0	2.8
被害発生ほ場(%)	—	—	100.0	32.1

注) 小株は葉長40cm未満、大株は葉長40cm以上。

小株の平年は過去10年の平均値。大株の例年は過去9年の平均値。

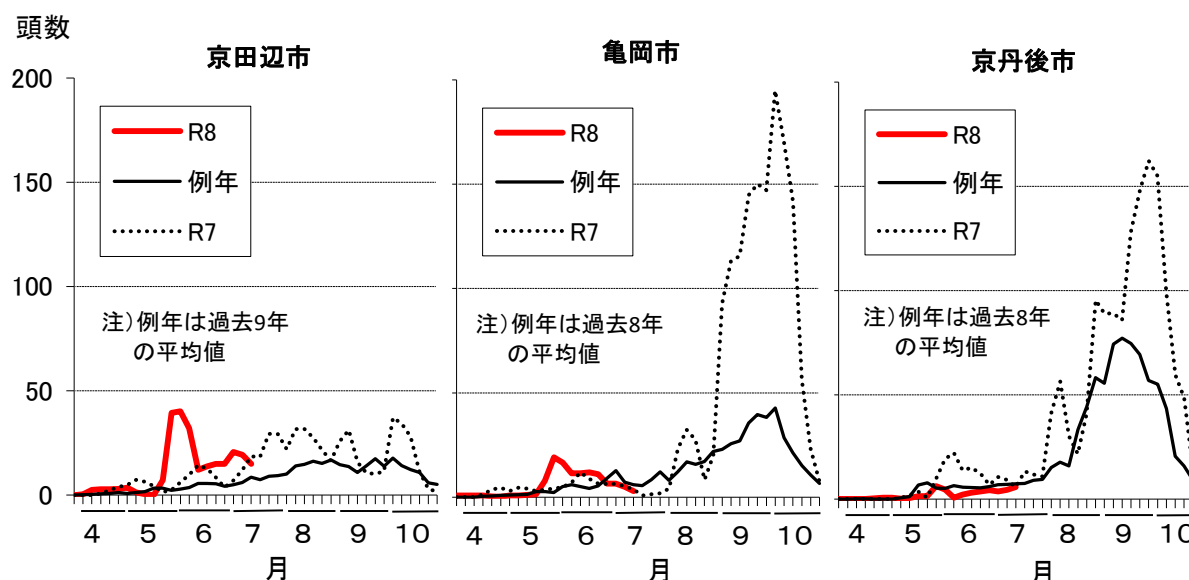


図 フェロモントラップにおけるシロイチモジヨトウの誘殺状況

7 防除上の留意事項

- (1) 齢が進んだ幼虫はネギの内部に入り込んで殺虫剤がかかりにくくなり、薬効も低下しますので、若齢幼虫期をねらった防除が重要です。
- (2) 被害葉及び収穫残さが本種の発生源となるので、一箇所にまとめて積み上げ、虫の拡散防止のため、表面をビニルで被覆する等、適切に処分してください。
- (3) 寄主範囲が広く、ネギ等の野菜類、豆類及び花き類を加害するので注意してください。

【参考】技術資料

「シロイチモジヨトウ防除における
化学農薬使用回数の削減マニュアル(2025年)」

https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/shiroichimojiyotou-manual_202502.pdf



農薬の使用に当たっては、ラベルおよび最新の使用方法や注意事項を確認してください。また、各薬剤の使用回数を守るとともに、同一成分を含む農薬の総使用回数についても注意してください。さらに、効果の高い殺虫剤でも連用すると薬効低下のおそれがあることから、作用機構(IRACコード)の異なる殺虫剤を組み合わせ、ローテーション散布に努めてください。